

令和7年8月



熊本(石工)や大坂(大工)、京都伏見(瓦師)から職人を招き、
当時の最新技術で築かれた府内城の見どころを紹介します。



大分合同新聞
ぶんぶん広場

大手公園

県庁舎新館

おおいたじょうしこうえん さくらなみき
大分城址公園の桜並木のある
場所は、江戸時代に大分川の河
口につくられた人工^{どて}の土手です。
みじろ しょうちよう
水城を象徴する施設で、土手の
上には堀が建てられていました。

A long, traditional Japanese building with a dark tiled roof and white walls, identified as the main hall of the Katsushika Museum. The building features a prominent entrance on the left and a series of white sliding doors along its length. It is situated in a garden-like setting with trees and a stone wall in the background.

府内城に残る、もう一つの江戸時代の櫓です。
 本丸の北東部、ひとじちば人質場と呼ばれた曲輪に位置し、1861(文久元)年に
 再建されたものです。